



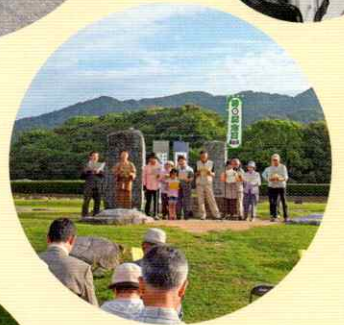
# 太宰府市民遺産 2020

太宰府市民遺産は、市民や地域が伝えたい太宰府固有の物語、その物語の基盤となる文化遺産(モノ・コト)、それらを守り育てる活動(育成活動)をセットにしたもので、市民が太宰府にとって大切だと納得したものです。



## もくじ

太宰府市民遺産とは？	1
第1号 太宰府の木うそ	3
第2号 八朔の千燈明	4
第3号 かつてあった道「四王寺山の太宰府町道」	5
第4号 芸術家 富永朝堂	6
第5号 万葉集つくし歌壇	7
第6号 太宰府における時の記念日の行事	8
第7号 隈麿公のお墓	9
第8号 太宰府の絵師 萱島家	10
第9号 苅萱の関跡とかるかや物語	11
第10号 太宰府の梅上げ行事	12
第11号 高雄の自然と歴史	13
第12号 太宰府悠久の丘	14
第13号 太宰府をうたう♪全11曲	15
第14号 梅香苑夏まつり子どもみこし	16
第15号 四王寺山の三十三石仏	17
太宰府市民遺産イベント案内	18



# あなたも、太宰府市民遺産を提案

## 太宰府市民遺産とは？

市民ひとりひとりが「いいな」「大事だな」と思う太宰府の物語を、その基礎となるモノやコト(文化遺産)とともに「未来の太宰府へ伝えよう」とする活動を含めて、“市民遺産”と呼んでいます。

守り育てる活動をしている2人以上のグループで提案し、市民・事業者・行政の協働組織である太宰府市景観・市民遺産会議が認定をしたものが太宰府市民遺産で、現在15件の市民遺産が認定されています。

【市民遺産の例】

石碑と地元の人々の物語

石碑などの関連する文化遺産

石碑を守る人々の活動



## どんな物語と文化遺産(モノ・コト)が市民遺産になるの？

将来に伝えたい、身近で大切にしたいもの、「なんかいいなあ」と思うものです。そこには必ず物語があります。

- 《例えば・・・》
- ・食(地域の郷土料理、懐かしい食べ物)
  - ・植物(思い出の樹木、草花群落、レンゲ畑)
  - ・自然(大岩、ホタルがいる川、カブト虫の森、谷)
  - ・地域の行事(夏祭り、盆踊り、正月行事、池干し、川掃除、夏休みのラジオ体操)
  - ・技術(職人技、地域の伝統技術)
  - ・もの(古写真、掛軸、絵馬)
  - ・昔話(伝説、伝承、出来事)
  - ・景色(ある場所から望む朝日、田んぼの風景、眺望点)
  - ・道路(狭い路地、坂)
  - ・建物(民家、商家、蔵、土塀、ビル、レンガ塀、橋、石垣、堤)
  - ・石造物(石碑、地蔵、道標)
  - ・神社や寺
  - ・文化財(遺跡、瓦)
  - ・ひと(名物おじさん)
- など

# ませんか？

## 提案するにはどうしたらよいのでしょうか？

提案は、2人以上のグループ(団体)でおこないます。仲間といっしょに提案しましょう。おひとりの場合でもご相談ください。

《例えば…》 学校、会社、自治会、サークル仲間、友達、ご近所同士、家族などです。

## 守り育てる活動(育成活動)とはどんなものなのでしょうか？

育成活動は人それぞれ、自分たちがやっている活動や自分たちでできる活動です。大きなことから、小さなことまでいろいろです。無理のない地道な活動を望みます。

《例えば…》

- ・文化遺産のまわりの草むしりや掃除を行う。
- ・文化祭などで解説パネルを展示する。
- ・行事を続ける。
- ・公民館で発表会などを実施する。

## どうやって市民遺産に認定される？

太宰府市民・事業者・専門家・行政等で構成された「太宰府市景観・市民遺産会議」で議論し、認定されます。

## 市民遺産に認定されるとどうなるのでしょうか？

- ・自分が大切にしたいと思ったものが、将来に伝えられる。
- ・伝えたい文化遺産や活動が市民に知られる機会が増える。
- ・自分自身で文化遺産を育成することができる。
- ・仲間や理解者が増える。
- ・太宰府市の文化や景観を支える力になります。
- ・市民遺産紹介のリーフレットが作成され、一般配布されます。

太宰府市民遺産に提案したいものがありましたら、お気軽に事務局にご相談下さい。

【問い合わせ】 太宰府市教育委員会文化財課(太宰府市景観・市民遺産会議事務局)  
〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺一丁目1番1号  
TEL:092-921-2121 FAX:092-921-3667 E-mail:bunkazai@city.dazaifu.lg.jp  
URL:(太宰府市)<http://www.city.dazaifu.lg.jp/>  
(太宰府景観・市民遺産会議)<http://www.市民遺産.jp/>

## 太宰府市民遺産 第1号

だ ざ い ぶ き

# 太宰府の木うそ

平成23(2011)年1月30日認定

景観・市民遺産育成団体:太宰府木うそ保存会



木うそは、<sup>うそ</sup>鶯という実在の鳥をモデルとした工芸品です。毎年正月七日に太宰府天満宮で行われる、一年の嘘を天神様の誠<sup>まこと</sup>に替える「鶯替<sup>うそかえしんじ</sup>神事」で使われます。神事では、参加者が木うそを手に「替えましょ、替えましょ」の合図と共に互いの木うそを交換していきます。その歴史は古く、400年以上といわれ、貝原益軒<sup>かいばらえきけん</sup>が『太宰府天満宮故実』(貞享2年(1685))でも紹介しています。

また、木うそは神事の祭具だけでなく、地元や参詣者によって支えられてきた伝統工芸品で、福岡県知事指定特産品にも指定されています。しかし、技術<sup>でんしやうじや</sup>伝承者が高齢化し、次第に技術伝承が困難な状況になってきたため、平成10(1998)年に「太宰府木うそ保存会」が立ち上がり、木うその歴史と製作技術を伝え、原木であるコシアブラの育成に取り組んでいます。

## 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・木うそとその製作技術(太宰府木うそ保存会)
- ・原木育成の場所(太宰府市石穴・内山、九重ほか)
- ・鶯替神事(毎年1月7日、太宰府天満宮境内)
- ・銅鶯像(太宰府天満宮境内)

## 【主な育成活動】

- ・木うそと鶯替神事の普及活動(絵付体験や出前授業など)
- ・絵付け体験教室(毎月第2日曜日午前11時~午後3時、太宰府館)
- ・木うその製作技術伝承(後継者育成講習会)
- ・原木育成活動



鶯替え神事



後継者育成講習会



原木育成活動



出前授業



## 太宰府市民遺産 第2号

はつさく せんとうみょう  
八朔の千燈明

平成23(2011)年1月30日認定  
 景観・市民遺産育成団体:五條風の会

江戸時代後期、太宰府で流行り病が発生し、多くの病人が出ました。そこで、五条の人々が太宰府天満宮に祈願したところ、病人が出なくなりました。この祈願成就のお礼と今後の疫病除けの祈願として、八朔の夜(旧暦の8月1日。現在は毎年9月1日に実施。)に太宰府天満宮に献灯するようになりました。

戦前までは五条の青年団によって行事が行われており、五条公民館に当時の資料が残されています。戦時中に中断したこともありましたが、昭和39年以来、区の行事として今も続けられています。

## ■現在の行事の内容

- 一、9月1日の夕刻に五条公民館に集合
- 二、さいふまいの道(旧街道)を通って太宰府天満宮へ行く
- 三、太宰府天満宮到着後、神職によるお祓いを受ける
- 四、自治会長がこの物語を子ども達に語り、ロウソクに一齐に点火する
- 五、終了後、もと来た道を帰る

## 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・八朔の千燈明の行事(五条区民)
- ・千燈明の場(太宰府天満宮境内)
- ・往復の道(太宰府市五条・宰府)

## 【主な育成活動】

- ・五条区役員、子供会、区民一体となって、行事の由来を伝え、八朔の千燈明を守り続ける。



行事のようす



点火風景



由来の説明



昭和60年の八朔の千燈明



# かつてあった道

し お う じ や ま

## 「四王寺山の

ち ょ う ど う

## 太宰府町道」

平成23(2011)年1月30日認定  
 景観・市民遺産育成団体:四王寺山勉強会



この道は、幅 3m 前後、全長約 4km、高低差 280m の山道で、昭和 40 年代に四王寺林道が完成するまで太宰府と四王寺集落を結んだ日常生活の重要な道でした。また、子どもたちが、夏の暑い日も、冬の寒い日も、約 1 時間かけて、麓の太宰府小学校まで通学した道です。現在この道は、森の中をくぐり抜けていますが、当時四王寺山には樹木が少なく、道中では西鉄太宰府駅に到着する電車が見えていました。

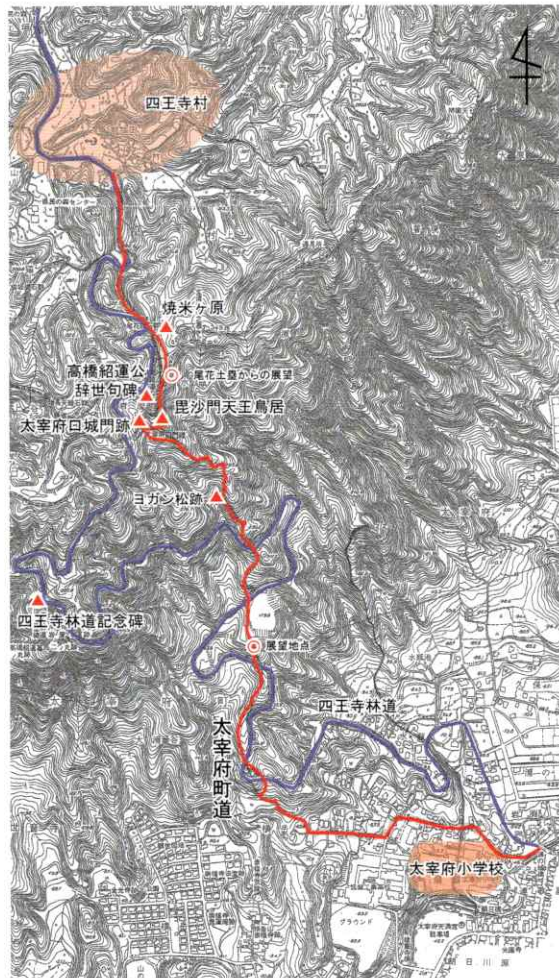
四王寺山勉強会では、このような歴史を感じる「物語と風景」を、後世に伝え、守っていく活動を行っています。

【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・四王寺山の太宰府町道(太宰府市大字太宰府ほか)
- ・上村高直著『太宰府 いま、むかし』
- ・福岡県発行「福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書付図」



太宰府町道の様子



【主な育成活動】

- ・道の清掃整備活動
- ・道の散策解説



太宰府町道の様子



太宰府町道の様子



太宰府小学校案内風景

太宰府市民遺産 第4号

とみながちやうどう

# 芸術家 富永朝堂

平成23(2011)年1月30日認定

景観・市民遺産育成団体:NPO法人歩か〜ね太宰府



富永朝堂(1897~1987)は、<sup>たかむらこうらん</sup>高村光雲、<sup>やまさきちやうらん</sup>山崎朝雲と続く日本木彫界の本道を受け継ぐ日本木彫界を代表する芸術家で、昭和19年から亡くなるまで太宰府で過ごしました。木が語りかけてくる言葉に執拗なほど耳を傾け、木が欲する姿を追い求める作風に「木の中に棲む作家」といわれました。

朝堂は、筑前美術協会をはじめ福岡県美術協会、筑紫美術協会の設立にも尽力し、福岡における美術界の礎となりました。また、<sup>いしげす</sup>観世音寺の復興や<sup>ふつこう</sup>宝蔵の建設にも尽力するなど、太宰府の宝をこよなく愛し、未来の太宰府へつなく努力を惜しみませんでした。

歩か〜ね太宰府では、市内にある様々な作品や朝堂の住まい家「吐月叢」とアトリエの作品群を人々に伝え、さらに朝堂の感性を磨き上げたこの太宰府の深い歴史と自然を伝えていきます。

## 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・吐月叢と作品群(太宰府市観世音寺4丁目)
- ・御神牛像(太宰府天満宮)
- ・宮村翁勤労の姿像(学業院中学校)
- ・校歌板彫(水城小学校)
- ・西都大宰府レリーフ(太宰府市役所)

## 【主な育成活動】

- ・市内にある作品を通し、歴史とみどり豊かな文化のまちをこよなく愛した芸術家富永朝堂を伝える。
- ・芸術家富永朝堂の住まい家「吐月叢」で、朝堂芸術の原点を伝える。

※吐月叢の見学には事前予約が必要です。



朝堂と神牛像



延寿王院前の神牛像(朝堂作)



吐月叢



吐月叢での解説風景



女神像

# 万葉集つくし歌壇

平成23(2011)年11月20日認定  
 景観・市民遺産育成団体:太宰府万葉会



日本最古の歌集『万葉集』には、約4500首の歌のうち、大宰府を舞台とした歌が200首あまり収められています。その中には神亀4年(727)に大宰府の帥として着任した大伴旅人をはじめ、山上憶良、紀男人、小野老、粟田比登、沙弥満誓、大伴坂上郎女らが詠んだ優れた歌があります。

天平2年(730)正月13日、大伴旅人は邸宅に大宰府と管内諸国の官人を招き、梅を題材に歌を詠む宴「梅花の宴」を催しました。この時に詠まれた32首も万葉集に収められています。

大宰府万葉会では、万葉集つくし歌壇の歌を伝えることを通して、万葉集に記された「遠の朝廷 大宰府」の情景と、それを感じることができる今の太宰府の素晴らしさもあわせて伝えていきます。

## 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・『万葉集』
- ・万葉歌碑(太宰府市内各所)
- ・梅花咲く政庁(大宰府政庁跡)
- ・霧立つ大野城跡(四王寺山)
- ・別れと出会いの水城(水城跡)

## 【主な育成活動】

- ・万葉集講座(毎月開催)
- ・万葉歌碑めぐり
- ・梅花の宴の開催(毎年2月)



都府楼跡



万葉歌碑めぐり



梅花の宴



万葉集講座



# 太宰府における 時の記念日の行事

平成23(2011)年11月20日認定  
景観・市民遺産育成団体：辰山会



大正9年(1920)に「時を守り、欧米並みの生活改善・合理化を図ろう」という主旨のもと「時の記念日」が制定され、翌年から全国で記念行事が始められました。太宰府でも奈良時代に時を刻む漏刻（水時計）が置かれたと伝えられる「辰山（月山）」を望む都府楼跡で、記念式典が行われました。その後も水城小学校の行事として、この行事は続けられていましたが、昭和40年代になり途絶えてしまいました。しかし、平成元年(1989)になり、城戸満（筑山）先生と教え子の方々によって再興され現在に至っています。

## ■現在の行事の内容

- 一、6月10日、午前6時10分を目途に都府楼跡に集合
- 二、行事の歴史や時を計り知ることの大切さを語る
- 三、水城小学校校歌や時の記念日の歌などを合唱
- 四、吟詠や舞いを披露

## 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・太宰府における「時の記念日」行事（辰山会）
- ・城戸筑山書『時の記念日』ほか 掛軸2幅（辰山会）
- ・都府楼跡（大宰府政庁跡）
- ・水城小学校校歌（水城小学校）

## 【主な育成活動】

- ・毎年6月10日に「時の記念日」の行事を実施し、時の大切さを伝えていく。
- ・時の記念日の歌の普及と行事への参加呼びかけ。



行事風景



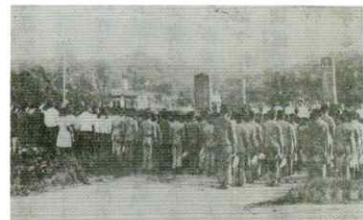
舞踊



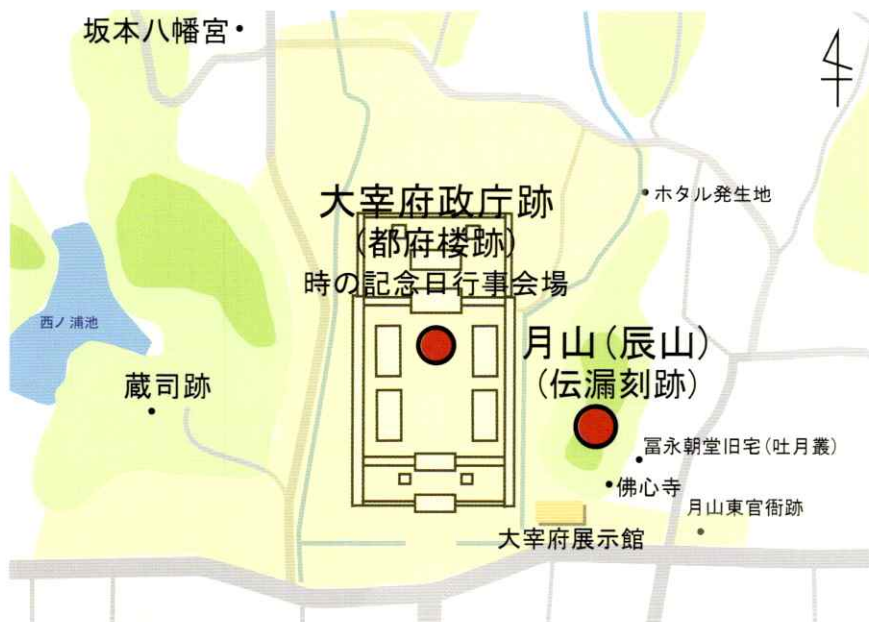
吟詠



都府楼跡から見た月山



戦前の時の記念日「郷土読本(中)」(昭和12年)



## 太宰府市民遺産 第7号

くま まろ こう

## 隈麿公のお墓

平成25(2013)年3月20日認定

景観・市民遺産育成団体:榎文化保存会



昌泰4年(901)、菅原道真は謀略によって都から大宰府へと左遷されました。この時道真は、まだ幼かった二人の子(紅姫と隈麿)を連れて下ってきたと伝えられています。その息子である隈麿公は大宰府に移った翌年の秋、病のために亡くなりました。その隈麿公のお墓と伝えられるものが、榎区に所在しています。昔から、お墓の傍らには珍しい六弁の花をつける梅が植えられています。

隈麿公のお墓の隣地に住んでいた菊武賢太郎さんは、隈麿公のお墓の世話をするようになり、お墓のまわりの玉垣も寄進しています。賢太郎さん亡き後も、妻のトリさんが毎日欠かすことなくお墓の周囲を掃除し、榎がしなびてくれば庭の榎を取って新しく供えています。高齢となったトリさんを思いやり、榎文化保存会が立ち上がり、隈麿公のお墓を守っています。



隈麿の墓とトリさん



春祭り



夏祭り



六弁の梅



戦前の隈麿墓と六弁の梅

## 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・隈麿公のお墓(太宰府市朱雀3丁目)
- ・六弁の梅(朱雀3丁目)
- ・賢太郎さんが植えた榎(朱雀3丁目)
- ・漢詩「秋夜」の碑(朱雀3丁目)

## 【主な育成活動】

- ・隈麿公のお墓周囲の清掃、榎のお供え
- ・春まつりと夏まつりの協力



# 太宰府の絵師

かやしま

## 萱島家

平成25(2013)年3月20日認定  
 景観・市民遺産育成団体：絵師 萱島家保存会



かやしま  
 萱島家は、太宰府で幕末より四代（鶴栖、秀山、秀岳と秀峰、秀溪）にわたって続いてきた絵師の家です。

その画風は、しじょうはの影響が強い伝統的のなんがと言えます。明治以降の日本画が変化していく中で、太宰府で伝統的スタイルを保持できたのは、親子によるつながりと太宰府という場所に伝統を継承する要素があったからだと考えられます。一方で、萱島家は町絵師として江戸時代終わりから現代まで、太宰府の伝統文化を伝えてきました。

鶴栖から秀溪の書画は、萱島家のほか太宰府を中心に、個人をはじめ神社への奉納絵馬や寺社の襖絵、学校の講堂など各所に見ることができます。また、数千点におよぶ作品や画稿が萱島家で大切に保管されています。

### 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・四王山荘（太宰府市宰府1丁目）
- ・萱島家にある書画、画稿、文書

### 【主な育成活動】

- ・太宰府の絵師萱島家の普及活動
- ・太宰府の絵師萱島家の資料・整理・調査



四王山荘（見学不可）



秀山「八仙人図」



秀岳「菊花之図」



秀溪「鷹之図」



鶴栖「秋郊親鹿之図」

# 太宰府市民遺産 第9号

かるかや せきあと

## 苧萱の関跡と かるかや物語

平成26(2014)年3月22日認定  
景観・市民遺産育成団体:かるかや物語を伝える会



「苧萱の関」は、中世まで太宰府市坂本の関屋付近にあったと伝えられる関所で、関守であった苧萱道心と息子の石堂丸との悲しい物語が伝えられています。

「苧萱の関の関守であった加藤左衛門尉繁氏は、花見の宴で桜が散ったことに無常を感じ、子を宿した妻と娘を残し高野山で出家し苧萱道心と名乗ります。繁氏の出家後に生まれた石堂丸は、母とともに高野山を訪ねますが、女人禁制のため、母を残して登ることになりました。その山中で出会った立派な僧に父のことを尋ねると、亡くなったと告げられます。実はこの僧こそ繁氏でしたが、仏門に励む道心は自分が父親と名乗ることが出来なかったのです。石堂丸がやむなく麓の宿に戻ると、母は急死していました。さらに、筑紫に戻ると、姉の千代鶴もすでに亡くなっていました。身寄りのなくなった石堂丸は、再び高野山に上って道心を訪ね入門し、修行に励みました。苧萱道心は父と名乗ることなく、信州でこの世を去った。」

全国的に知られているこの物語の出発地が太宰府であることを地元で知る人は今や少なく、紙芝居など新たなツールを作って伝える活動を行っています。

### 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・ 苧萱の関跡の石碑 (太宰府市坂本 1 丁目)
- ・ 苧萱道心と石堂丸の物語
- ・ 稲子地蔵 (国分 3 丁目)
- ・ 石堂地蔵尊 (福岡市博多区)
- ・ 高野山苧萱堂 (和歌山県金剛峯寺)
- ・ 苧萱山寂照院西光寺 (長野市)

### 【主な育成活動】

- ・ 苧萱の関跡石碑周辺の美化活動
- ・ 苧萱の関、苧萱物語についての学習会の実施
- ・ 紙芝居を行い、物語を伝える



苧萱の関跡を伝える絵はがき (昭和初期)



苧萱の関跡 (昭和 40 年代)



紙芝居



説明碑の墨入れ



# 太宰府の 梅上げ行事

平成27(2015)年2月21日認定  
景観・市民遺産育成団体:太宰府梅ばやし隊



太宰府では毎年3月に、初老(40歳)を迎える男性、還暦(60歳)を迎える男女が、それぞれ厄払いとして太宰府天満宮に梅の木を献ずる「梅上げ」が行われます。

行事では、中央公民館などを出発点に「どんかん道」や参道を通って、梅の木を飾り付けた荷車を引く牛、三味線・鉦・太鼓のお囃子隊が列を連れ、お揃いの法被と手ぬぐいの装束でしゃもじを打ち鳴らし、厄払いの紅白の小餅を道行く人やお接待の人たちに配りながら練り歩きます。最後に天満宮の境内の一角に梅の木を植樹します。

梅上げの歴史は、明治35(1902)年に行われた太宰府天満宮菅原道真公御神忌一千年大祭の際、博多の高砂連600名や福博都保美会が太宰府の街を練り歩いて天満宮に参拝したことがその契機となったと伝えられ、その頃、初老・還暦の祝い行事として、氏子を中心とした太宰府の人たちが太宰府小学校同窓生と一緒に、天満宮に献梅したことが梅上げの始まりと考えられています。

現在、梅上げの先頭を行く「お囃子隊」は、平成24(2012)年に発足した「太宰府梅ばやし隊」が、ボランティアで担っており、梅上げ行事を盛り上げています。

【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・梅上げ行事(毎年3月)
- ・梅上げ写真・古写真
- ・お囃子隊
- ・梅引き台車と牛

【主な育成活動】

- ・梅上げのお囃子隊の同行とその育成
- ・梅上げの写真を集める活動
- ・「梅上げ」写真展の開催
- ・梅上げ開催の広報活動など



どんかん道を進む梅上げの隊列



沿道での接待



参道を進む梅ばやし隊



餅まき(初老のみ)

# 高雄の自然と歴史

平成27(2015)年2月21日認定

景観・市民遺産育成団体:高尾山の自然と歴史を語り継ごう会



高雄地区は太宰府市の東南に位置し、北には標高 151m の高尾山があり、中央部には高尾山を源流とする高尾川が流れる自然豊かなところです。

高雄地区では、弥生時代の甕棺墓群（吉ヶ浦遺跡）や、古墳（葛蒲ヶ浦古墳群など）や竪穴住居など貴重な遺跡が見つかっています。高尾山は、江戸時代の『筑前国続風土記』をはじめとする史料に見られ、山頂付近には、高尾山城跡や大行事塔があります。また、各家には大師・薬師如来などの屋敷神が祀られ、地域の人々によって大切に守り受け継がれてきています。

現在の高雄地区は開発が進んでいますが、高尾山山中ではタヌキなどの小動物やメジロ、カワセミなどの鳥類、高尾川では上流でホタル、中流でハヤ・フナなど、四季を通じて様々な生き物を見ることができます。

会では、このような誇るべき「高雄の自然と歴史」を記憶にとどめ、さらに地域住民や子どもたちに伝え、未来の人々へ残すために活動しています。



【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・高尾山
- ・高尾山城跡
- ・高尾川
- ・大行事塔
- ・大師石像などの石造物

【主な育成活動】

- ①文化遺産の存在の周知活動
  - ・文化遺産めぐり
  - ・文化祭での展示
  - ・小中学校への出前講座
- ②文化遺産（古道、風習、遊び、唄等）の調査
- ③「豊かな自然」の保全活動



高尾川



高尾川上流のホタル (5月下旬)



葛蒲浦古墳出土の方格規矩鏡



高尾山 大行事塔

# 太宰府悠久の丘

## ～メモリアルパークからの眺望

平成28(2016)年3月13日認定

景観・市民遺産育成団体:公益財団法人 太宰府メモリアルパーク



太宰府メモリアルパークには2つの展望所があります。そこからは太宰府から福岡都市圏、そして遠く博多湾まで見渡すことができ、その雄大な景色は、太宰府屈指のものと言えます。

その展望所は、そこに立ち・望む人によって「それぞれの物語」を生み出していく場所です。例えば水城跡、四王寺山、宝満山を通して、白村江の戦いで敗戦後の緊迫した状況や古代太宰府の繁栄を思い浮かべる人、太宰府から博多湾までの距離を見て古代・中世と太宰府が大陸との交流拠点として発展した地理的背景を感じる人。そして、飛行機が離発着を繰り返す福岡空港や車が行き交う高速道路、変化し続ける街並みから現代における人々の営みを感じる人。

展望所は、幾多の物語を生み出し、時を超え変化し続ける『悠久』の街の姿を感じられる場所です。歌碑や説明板の設置をとおして展望所の環境整備をおこなっています。

### 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・夫婦桜展望台
- ・太宰府の丘展望台
- ・万葉歌碑
- ・四王寺山
- ・宝満山
- ・水城跡

### 【主な育成活動】

- ・展望台の整備と一般開放
- ・万葉歌碑の保全
- ・眺望写真パネルの設置
- ・眺望に関わる周辺環境の保全
- ・太宰府の歴史・文化に関する社会貢献活動



太宰府の丘展望台の解説板

太宰府メモリアルパーク 開園時間:午前8時～午後6時(6～9月は午後7時まで)  
(太宰府市大字大佐野 807-128)



太宰府の丘展望台の万葉歌碑



夫婦桜

# 太宰府をうたう♪

## 全11曲 (作曲・唄 岩崎記代子)

平成30(2018)年2月3日認定  
 景観・市民遺産育成団体:岩崎記代子と「赤い鳥」と「夢みらい」



「太宰府をうたう♪全11曲」は、作詞家たちによって作られた太宰府にちなんだ詞に、<sup>いわさき きよこ</sup>岩崎記代子さんの曲と歌声をのせることで作品ができあがっています。作曲家・声楽家の岩崎さんは、平成5年に<sup>かいだんいん</sup>戒壇院復興活動のなかで、「寂光に佇ちて」を作曲したことをきっかけに、太宰府をテーマとした作品をつくるため、平成12年から観世音寺のほど近くに住まいを移し、今に至っています。

岩崎さんいわく「太宰府は、様々な“音”に<sup>み あふ</sup>満ち溢れている」とのこと。政庁跡に立てば古代からの<sup>いくた</sup>幾多の思いが、また、太宰府天満宮や榎社に立てば天神さまの思いが、岩崎さんをかきたて、湧き出した音により、作品が創り出されています。岩崎さんが創り出した“音”には、太宰府の四季のような様々な“色”があり、11曲に語られている太宰府の歴史や風景が、聴く人の体に自然に溶け込むものとなり、太宰府に馴染みがない人たちにも聞きやすいメロディとなっています。また、その音色の奥には、強い魂を感じることができ、それからにじみ出る品格や人柄が、さらに聴衆を魅了するものとなっています。

### 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・「観世音寺を訪ねて」(作詞:村上寿浩 作曲・唄:岩崎記代子)
  - ・「寂光に佇ちて」(作詞:平山芳江 作曲・唄:岩崎記代子)
  - ・「都府楼址」(作詞:村上寿浩 作曲・唄:岩崎記代子)
  - ・「天神様の12ヶ月」(作詞:村上寿浩 作曲・唄:岩崎記代子)
  - ・「風は友達-太宰府バージョン-」(作詞:平山芳江 作曲・唄:岩崎記代子)
- ほか、全11曲

### 【主な育成活動】

- ・太宰府市及びその周辺、近隣県外などで、福祉・慰問・芸術祭などのコンサートなど、社会福祉、生涯学習の中で、地域貢献のため太宰府の歌を広めて、太宰府の魅力を発信し続ける。

### 岩崎記代子音楽記念館 (見学は事前予約が必要です)

太宰府市観世音寺5丁目2-51 TEL092-923-7775



コンサート風景



出前コンサートのようす



教室の風景



譜面



譜面



記念館入口



CD



# 梅香苑夏まつり 子どもみこし

平成30(2018)年9月19日認定  
景観・市民遺産育成団体:梅香苑区自治会



ばいこうえん

梅香苑区は昭和 50(1975) 年代前半頃に開発された新興住宅地です。昭和 57(1982) 年頃、子どもたちに故郷の思い出を残してやりたいという思いから「子どもみこし」が始まりました。当初の子どもみこしは樽をのせた質素なみこしで、太鼓や法被も太宰府天満宮から借りていました。その後は、子どもたちのためにと、地域の人たちで、みこしを手作りし、紅白の曳き綱を編み、太鼓や法被なども揃えていきました。平成 29(2017) 年には、自慢のみこしも傷んできたため、地域の人たちの協力により、台車を新設し、みこしを修復しました。

子どもみこしは、毎年 8 月第一土曜日に区の夏まつりの午前中の行事として実施されます。鐘、太鼓、みこしと並び、大うちわ、旗を持ち、大きな声をかけ、沿道から力水を浴びながら、団地内の上り下りの坂道を元気よく回っていきます。みこしのコースは、その年に参加する子どもの居住地をできるだけ回れるようにと毎年検討し決定されています。

## 【物語の基礎となる主な文化遺産】

- ・子どもみこし行事
- ・神輿
- ・太鼓
- ・法被
- ・大うちわ
- ・旗
- ・台車

## 【主な育成活動】

行事を通して、地域の子どもの健やかな成長を願い、幼い頃の思い出を残してやりたいという先人たちの子どもみこしに込められた思いを、子ども会や住民とともに、子どもたちへ伝えていく。

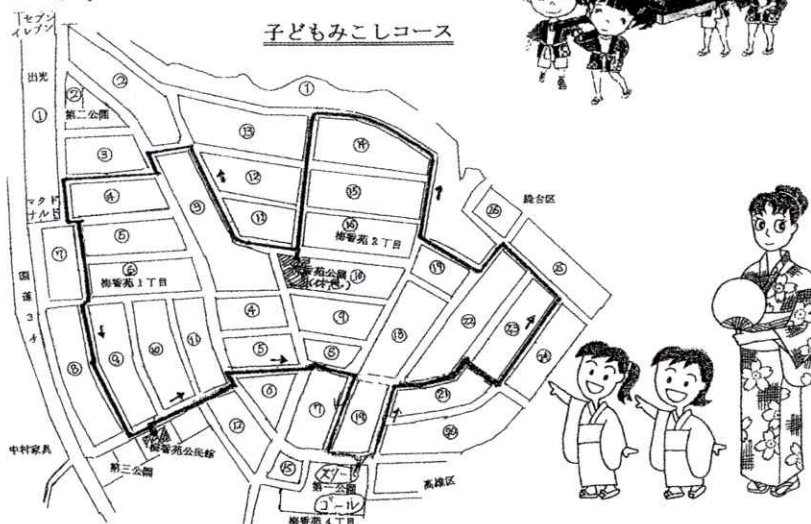
梅香苑区  
40周年記念

## 夏祭り

## 10時スタート 子どもみこし

子ども達が、みこしをひいて町内を巡行します。勢い水をかけて、子どもたちに元気を与えてください。

## 子どもみこしコース



▲ 2018 年のみこしのコース



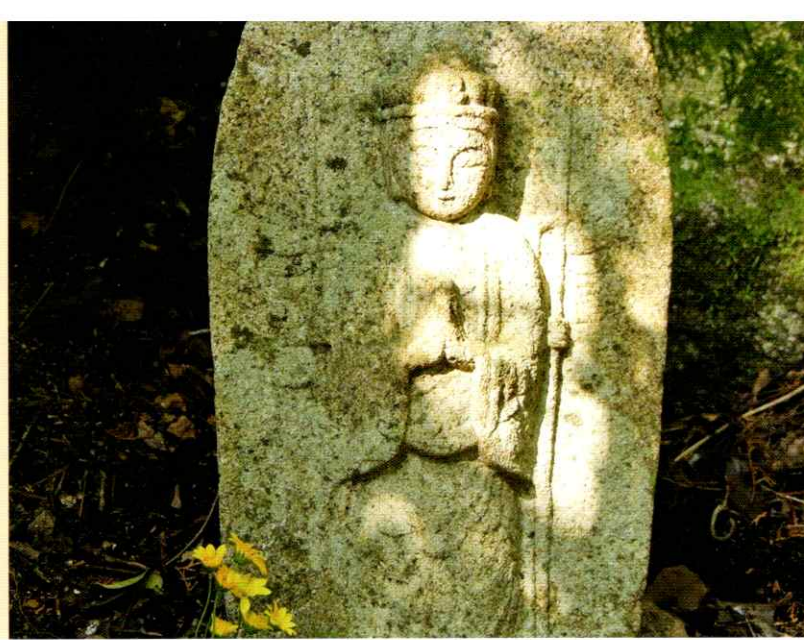
子どもみこしのようす



住民が手作りしたみこし

し お う じ や ま  
**四王寺山の**  
 さん じゅう さん せ き ぶ つ  
**三十三石仏**

令和元(2019)年8月26日認定  
 景観・市民遺産育成団体:四王寺山勉強会



江戸時代後期(寛政年間)、博多で洪水や大火事、流行り病などの凶事が続くことがありました。このような状況のなか、姿を自在に変えて人々を救済する観音菩薩の御利益にあやかろうと、博多の浜口町などの主だった人々が思い立ち、そこに宇美・太宰府の心ある人々も協力して、西国三十三カ所観音霊場にならった石仏めぐりの札所が宇美町・太宰府市・大野城市にまたがる四王寺山一円につくられたといわれています。その建立は、順路を含めた山林の開拓など諸々困難を越えての大事業だったと伝えられています。

220年余り四王寺山に佇み、人々を見つめ、語りかけるような表情の素朴な石仏は、今なお庶民の祈りの対象として生きています。

【物語の基礎となる主な文化遺産】 三十三石仏(1~33番札所)

【主な育成活動】

- ・三十三石仏の定期的な見守り活動と関係団体との情報交換。
- ・作成した関連資料、散策マップなどのPRツールを活用して広く四王寺山の三十三石仏を知ってもらう活動をする。
- ・現地を案内するウォークや学習会の開催をとおして、三十三石仏建立の物語と文化遺産を伝えていく。



活動風景



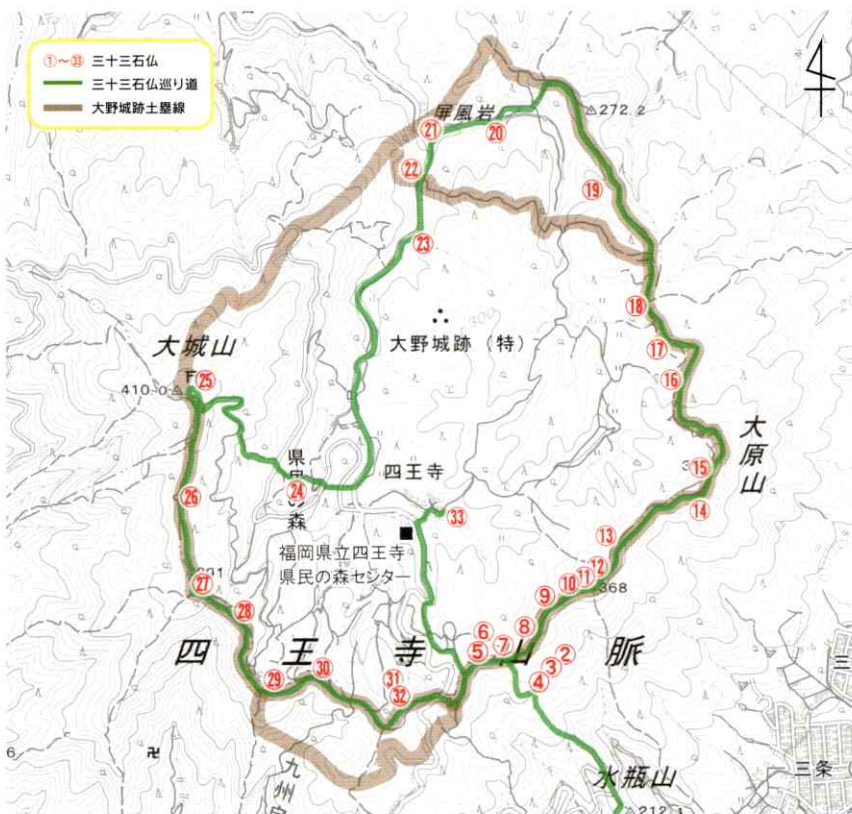
石仏巡り案内のようす












三番札所・千手観音






三十番札所・千手観音



## 太宰府市民遺産 イベント年間カレンダー

- 1月7日: 鷺替神事(太宰府天満宮境内) 
- 2月上旬～中旬: 梅花の宴(太宰府館等) 
- 3月上旬: 還暦の梅上げ(五条～太宰府天満宮) 
- 3月中旬頃: 初老の梅上げ(五条～太宰府天満宮) 
- 4月15日: 隈麿墓の春まつり 
- 6月10日: 時の記念日の行事(午前6時10分～、大宰府政庁跡) 
- 7月15日: 隈麿墓の夏まつり 
- 8月第一土曜日: 梅香苑夏まつり子どもみこし(梅香苑第1公園一帯) 
- 8月15日頃: 太宰府悠久の丘夜間公開(太宰府メモリアルパーク) 
- 9月1日: 八朔の千燈明(太宰府天満宮楼門前) 

### 定例開催

- 毎月第2日曜日: 木うそ絵付け体験(太宰府館) 
- 毎月: 万葉講座(太宰府館) 
- 毎月: 万葉歌碑めぐり 

各イベントの詳細やこの他の行事案内は太宰府市景観・市民遺産会議のホームページで紹介しています。  
太宰府市景観・市民遺産会議ホームページ <http://www.市民遺産.jp/>

# 文化遺産からはじまるまちづくり



太宰府市民遺産ロゴマーク



太宰府市景観・市民遺産会議ホームページ  
<http://www.市民遺産.jp/>

太宰府市民遺産に関するお問い合わせは・・・

太宰府市景観・市民遺産会議事務局(太宰府市教育委員会文化財課)  
〒818-0198 太宰府市観世音寺一丁目1番1号  
TEL:092-921-2121 FAX:092-921-3667  
E-mail:bunkazai@city.dazaifu.lg.jp

■太宰府市役所ホームページ <http://www.city.dazaifu.lg.jp>

編集・発行／太宰府市教育委員会文化財課